

令和5年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立保谷中学校

●全国学力学習状況調査（中学校第3学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	48.4%	すべての領域で基礎学力の定着が見られており、特に「話すこと・聞くこと」の領域で目的や場面に応じて適切に考えをまとめることができている。登場人物の心情の変化を読み取る際、着目する観点を明確にして指導しており、その定着が見取れた。	根拠を明確にすることや特徴を捉えることに課題が見られたため、説得力のある主張を書けるようになるための指導を継続して行っていく。また、文章を書く機会を意識的に作っていくことにより、表現においては知識を増やすだけでなく、活用する技術を高められるように指導していきたい。
	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	52.2%		
	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	66.9%		
	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	68.8%		
数学	反比例の意味を理解しているかどうかをみる	40.1%	4つの領域すべてにおいて、基礎計算力や情報を処理する力の定着がみられた。特に「B図形」領域において性質を見取ったり、証明を振り返り読み取る力で極めて高い正答率であった。また、基礎的な記述問題は筋道を立てて説明することができ、これまでの基本的な学習の積み重ねを着実にやってきた成果が得られた。	自然数や反比例の意味を理解しているかなど、1学年の内容理解の定着に課題が見られた。これらの内容が3学年まで既習事項として学習する機会がないためと思われる。また、2学年で学習する「四分位範囲」において次年度で既習事項の確認をしながら定着を図る。
	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる	44.6%		
	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	47.1%		
	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	47.1%		
英語	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	14.0%	必要な情報を正確に読み取ったり、概要や要点を捉えたりといった「読むこと」の領域において学力の定着が見られた。また、記述式の設問での正答率が高く、基本的な学習の積み重ねの成果が見られた。	「聞くこと」や「読むこと」と比べて、自分の意見とその理由を述べたり、表現を書き換えたりといった「書くこと」の領域に課題が見られた。考えを整理しまとまりのある文章を書く機会を意識的に設けることで、課題の改善を図っていきたい。
	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる	26.1%		
	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	31.2%		
	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる	35.0%		